

2015/10/01 10 月度教養講座

「カーシェアリングと環境 ―企業活動における移動手段の変革―

株式会社ジェイティップス 川口 環

1. カーシェアリングとは

カーシェアリングは 10 年以上前から導入されているサービスである。カーシェアリングはもともとスイス発祥で、アメリカで発展したサービスである。日本で一番最初にカーシェアリングを事業化したのはオリックスであり、11 年前に開始された。カーシェアリングは「無人のレンタカーサービス」であるにとらえることができる。コインパーキング脇に登りがあったり、カーシェアリングのマークがあったりとして目につくような環境になってきており、ここ数年で知名度が上がってきている。

カーシェアリングを行うためには入会が必要であり、使用の際は、ネット上で使用の予約（15 分前に）が必要となる。ドアのカギは鍵となるカード、ないしはケータイのタッチでドアを開ける。車のキーはダッシュボード内にあり、そこから出し入れしてエンジンをかける。カーシェアリング用に準備されている車は環境性の高い車や高性能な車が多い。

カーシェアリングの 3 つの特長として①24 時間いつでも必要な時間だけ利用でき、支払は利用した分だけである。②短時間から利用可能で、レンタカーのように車を借りるまでの面倒な手続きがない。保険料・ガソリン代も入会時の料金に含まれている。ガソリン代は車にガソリン会社のカードがあり、そこから支払う形になる。カーシェアリングは車を共有で使用し、他の人も使用するため、次の人が気持ち良く使える配慮が必要である。③ライフスタイルや利用目的にあわせて選べ、出張先や旅先でも利用できるという点が挙げられる。

カーシェア利用の主なメリットとして①車を保有するのに比べて経済的であることが挙げられる。購入費や駐車場代、自動車税や車検日等をカットできる。②車の保有数、利用頻度、走行距離が少なくなるといったデータが出てきており、温室効果ガス排出量の削減、都市部における慢性的な渋滞も緩和することが見込める。③車庫スペースが不要で国土の狭い日本においては社会的なメリットが生まれるといったものがある。

カーシェアリングの主要業者の第 1 位はタイムズカープラスである。全国の各主要都市にあり、コインパーキング事業のインフラをもとに全国展開している。次いでオリックスカーシェア、カレコ・カーシェアリングクラブである。

カーシェアリングの利用は毎年右肩上がり伸びている。日本において 70 万人のカーシェアユーザーがいると言われており、2014 年に前年比 45.3%増の 154 億円の市場となっている。2020 年にカーシェアリングの市場は 295 億円に達する見込みである。しかし、レンタカーに比べるとまだまだ小規模の市場であると言える。

日本のカーシェアリング市場の展望としては、市場規模は会員数や車両台数は北米に迫る勢いであるといえる。発祥の地であるスイスでカーシェアリングが伸びた経緯としては

国策として進められていたことがあげている。アメリカでは商業的な面で伸びていった。日本の中で伸びてきている要因としては、環境に対する意識（シェア意識）の高まりや公共交通機関が高度に発達している点などが挙げられる。

2. カーシェアリングと環境

カーシェアの環境負荷低減効果として7点あると言われている。具体的には、①CO₂排出量削減による温暖化効果、②省エネルギー効果、③エコカー（低公害車）の普及、④公共交通の活性化、⑤交通量の減少による渋滞緩和、⑥駐車場不足&路上駐車解消、中心市街地の再生（地域活性化）&都市郊外化の抑制である。

特に中心的なものとしては、カーシェア利用による車の保有数の減少である。古い車が道路から消えることも排気ガスの現象につながっているとされている。

カーシェアリング加入世帯の加入後のマイカー保有台数は、カーシェアリング搭乗前の0.45台より0.28台の減少し、1世帯当たり0.17台と変化してきている。

また、カーシェアリングを利用すれば利用するほど料金が発生するため、ムダに使わないようにしようという経済的心理が車そのものの利用頻度の減少と走行距離の減少につながっている。これがひいてはCO₂の排出量の削減につながっている。

さらに、カーシェアにおいては積極的にエコカーが利用されており、エコカー普及に貢献していると予想される。

カーシェアリングの普及による効果として、過度な自動車の利用が抑制され、公共交通機関の適切な利用が促進されることが挙げられる。鉄道駅にカーシェアリング車両を配置した場合、拠点間の中長距離移動は、公共交通を利用し、拠点内の短い距離移動は、カーシェアリングが利用される動きが見られる。

カーシェアリングのデメリットとして、借りたい時に借りられないということがある。レンタカーのように他店舗間で調整ということはないため、必ずしも使いたい時に車が準備されていないということが業務の支障につながる可能性はある。また、レンタカーとは異なり乗り捨てが出来ない点、予約時返却時間を設定しなければいけない点が挙げられる。

3. カーシェアの法人利用

カーシェアリングの法人利用のメリットとしては、①発生する費用は利用した分だけであり、駐車場代や燃料費も利用料金に含まれているので、固定費や維持費を削減することができる。②法人プランは「月額基本料金が無料」であり利用しなければ料金は発生しない。③走行距離等の運行管理の手間が省ける。④主張先でレンタカーよりも安く、かつ効率的に車が使える。⑤固定費を増やすことなく、リース車との併用も可能である。⑥運転者登録をしたスタッフであればだれでも利用できるので、繁忙期などによる利用頻度の変化やスタッフの急な増減時にも柔軟に対応できる。⑦「リース車」から「カーシェアリング」へ一気に移行するのではなく、コストメリットなどを見ながら段階的な移行も可能で

ある。カーシェアリングの法人利用満足度は約 8 割であり、約 7 割の企業が業務効率の変化を時間しているという回答がなされている。

法人でカーシェアリング利用を始めるには、運転を登録する者の免許証のコピー、法人クレジットカード（銀行引き落としも可）、商業登記本のコピーなどが必要になる。申込後 IC カードが登録した人数分が郵送で送られてくるというのが一般的である。

4. 終わりに

法人利用のメリットをまとめると①経費削減、②効率の改善、③環境負荷低減への貢献の 3 点である。カーシェアリングを利用することで、その利便性・経済性を活用することができ、費用の削減・土地の有効活用など経営の効率化・最適化を図ることができる。また、新たな設備投資・事業拡大などを進めることが期待できる。これらの結果、ひいては地域経済の活性化・雇用の増大などの一定の経済的効果につながるが見込まれるため、社会的意義が大きく、環境保全にも寄与できると言えるだろう。